



見てみまっし
聞いてみまっし
来てみまっし



のみし



能美市



金沢駅から30分 小松空港から15分

「よきくに 美しき、能国」 の 能美の国



能美市の「能美」の名が初めて現れるのは、今から約1200年前の平安時代前期頃です。能美地域一帯は、古来より人々が生活するうえで環境の整った適地であったようで、県内でも「遺跡の宝庫」と言われるほど、原始から近世に至る遺跡が密集しております。とくに国の史跡で、そのシンボルでもある能美古墳群の被葬者である大豪族たちは、加賀平野のほぼ中央に位置するこの地に政治拠点を置き、東に白山、西に日本海、北に手取川を一望できる能美丘陵を彼ら自らの墓域に選ぶことで、後の加賀国、能美の政治経済基盤を築きあげたのです。「能美」とはおそらく、「物事を成し得るすばらしい能力と美しい自然環境の地」といった意味があり、当時の人々が、美しい白山や日本海、緑多き平野を眺望し、新しい国づくりを思案する意欲や誇りをもって「美しき能国(よきくに)」の「能美」とされたと伝えられています。

人口5万人の小さな街に、海と山と川と揃っているうえ、天保7年(1836年)創業の名湯や、ゴルフ場、遊園地、動物園に、古墳、九谷焼資料館、博物館、キャンプ場など楽しめるところもたくさんあります。

もし、ちょっとでも興味があれば、市がとことんやっている施策をまず「見てみまっし」。そして、移住された素敵な方々に市の魅力を「聞いてみまっし」。それで我慢ができなくなったら、すぐ能美市に「来てみまっし」。石川弁で地元の人がほんわかと迎えてくれますよ。



見てみまっし

「住みよさランキング2019」全国8位



犯罪件数、交通事故件数の少なさから安心度が高く評価され、全国トップの汚水処理人口普及率、一住宅あたりの延べ床面積の広さなど住環境も大きく評価していただいておりますが、一番の自信は・・・
子どもの医療費助成第1位。

18歳までの子どもの医療費（保険診療分）の窓口無料化

0歳から18歳までの乳幼児・児童・生徒等にかかった医療費の保険診療分の窓口無料化を実施しています。「整骨・接骨・鍼灸にかかった場合」も窓口無料化となりました。

保育園は生後2か月児から受入れ、病後児保育など充実した保育サービスを提供

一人ひとりの子どもの育ちや、保護者の子育てを支え、地域に根ざした保育園を目指しています。2015年に認定こども園に移行し、就学前の子どもの幼児教育と保育を一体的に受けることができます。待機児童数はゼロで、3歳児以上は保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れています。

保育士等による育児相談や保育園での一時保育が利用できるマイ保育園

妊娠・出産から一安心の3歳まで、新しい家族を迎え希望に満ち満ちている反面、「こんなときどうしよう」となにかと不安の多い時期に、身近に相談できる場所として保育園が利用できます。無料で保育士等による育児相談や平日午前半日の一時保育（3回まで）等のサービスが受けられます。

発熱や病気の子どもの預けられる病児保育センター

病児保育センターでは、子どもの急な発熱や病気などでお困りの時に、保護者の方に代わって、保育士と看護師が一時的に子どもをお預かりします。

乳幼児期の子育てを支援する子育て支援センター

子育て支援センターは、親子がいつでも気軽に立ち寄り自由に過ごせる場所です。子どもたちが元気にすくすく育ち、ママが子育てが楽しいと思えるように、子育てのお手伝いとしていろいろな活動を行っています。



すべての小学校区にある児童館と放課後児童クラブ

小学校8学区すべてに、児童館と放課後児童クラブがあります。児童館は10館、放課後児童クラブは13クラブあります。



全国的にもいち早く、産前産後のママを支援する出産子育て応援事業を実施し、妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援を。さらに、子どもたちを取り巻く環境の変化から、健やかな成長を地域総がかりで育むことにも取り組んでいます。

出産前後を独自で支援

不妊治療では、石川県の助成に能美市独自の上乗せや対象を拡充

石川県内初「妊娠・出産のため生じた疾病」の医療費（保険診療分）を助成

石川県外で受診した妊産婦・乳児健康診査費や出産予定日を超過した妊婦健診費を助成



産後も安心できる環境を提供

産後のママと赤ちゃんのための充実した産後ケア

産後12か月未満のママと赤ちゃんを対象に、助産院での「産後お泊りケア」や「産後日中ケア」「訪問型産後ケア」サービスで、母子のケアや授乳指導、赤ちゃんのお世話についての相談に応じています。

産前・産後は子育て応援ヘルパーがお手伝い

産前の体調不良や産後間もない時期に、援助を受けられない方へ子育て応援ヘルパーを派遣し、食事の準備や掃除などの家事または育児のお手伝いをします。

子育て応援弁当の配達

栄養士の献立による和食中心の栄養バランスの取れた「子育て応援弁当」を産前・産後2か月までの核家族に配達します。(月6回程度)

祖父母にいまどきの育児の講習会を開催

今と昔は子育て環境も大きく変わっています。「孫まご教室」は、今どきの若い世代にとっても頼れる祖父母になるために最新の育児を伝授します。

学校教育に地域ががんばるまち

退職教員、地域の方による学習支援

「フォローアップスクール」では、小学校3年生から6年生までの子どもたちを対象に、市内在住の退職教員や地域の方による学習支援が行われています。参加した児童からは「わかりやすい」、「家よりも集中できる」、保護者からは「自分から進んで勉強するようになった」、「友達と勉強できるのがうれしいようです」と好評です。

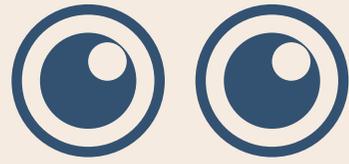


地域の方による学校サポーター

地域の方が学校サポーターとして安全指導や地域の歴史・文化、読書活動の推進や、日々の学習の支援を行い、子どもたちの豊かな心の育成を図ります。



ここも見てみまっし



能美市は「子どもたちが元気」です。
大人になっても元気なまま活躍し、日本を代表する
スポーツ選手や文化人へと成長しています。

地域における学校外活動の場が豊富です。すべて地域の人々が指導に当たっています。

豊富なスポーツクラブと文化活動サークル

ジュニアスポーツクラブ

野球、陸上競技、テニス、バレーボール、空手、サッカー、ハンドボール、水泳から、ソフトボール、トランポリン、バスケットボール、バドミントン、剣道、柔道、相撲、少林寺拳法、ドッジボール、ラグビーまで。ジュニアスポーツクラブは46あります。

ジュニアサークル

陶芸、演劇、茶道、書道、日本舞踊から、大正琴なかよしサークル、クッキングサークルまで文化活動を体験するジュニアサークルがあります。(2019年調べ)



豊富なスポーツ施設

市内各地には体育館や野球場、テニスコート、グラウンドゴルフ場など、健康づくりに役立つスポーツ施設が豊富にあります。特に物見山運動公園には、ナイター設備を備えた全天候型400mトラックの陸上競技場や野球場、テニスコートのほか、屋外プールやランニングコースなどを備えた総合体育館が集まっており、周辺には芝生広場も広がっています。



能美市出身のスポーツ選手・文化人

2016年リオデジャネイロオリンピック競泳4×200メートルリレーで、52年ぶりの銅メダルを獲得した小堀選手や、陸上競技男子20km競歩で世界記録、ドーハ2019世界陸上競技選手権大会男子50km競歩で金メダルを獲得した鈴木選手、メジャーリーガーとしても大活躍した松井秀喜さん、プロ野球現役選手では中日ドラゴンズの京田選手、読売ジャイアンツの高木選手らは全員、能美市のスポーツクラブ出身です。今後の活躍が期待されるライフル射撃のワールドカップに出場した平田しおり選手、そして、宝塚歌劇団出身で女優の大月さゆさん、フリーアナウンサーの小林奈々絵さんは、普段のご活躍に加え、能美市のイベントにも貢献されています。



松井秀喜さん



京田陽太選手



高木京介選手



小堀勇氣選手



鈴木雄介選手



平田しおり選手



大月さゆさん



小林奈々絵さん

同規模市区で全国第5位の蔵書数の能美市立図書館

市立図書館は3館あり、同規模の市区では、全国5位の蔵書数。(「図書館年鑑2019」データ)館内では利用者の年齢層や利用目的に応じて読書を楽しめ、市内各地で読書推進活動を展開するなど、本に親しみやすい環境を整えています。



辰口図書館



寺井図書館



根上図書館



聞いてみまっし



どうして能美市？たまたま能美市？やっぱり能美市？
移住された方々取材させていただくと
魅力あふれるとても素敵な方々でした。
そして市としては、ここでどうしてもキャッチコピーをアピールしたい。
“したいこと、能美市だったら叶うかも”



やっとここに
戻れました。

奥村 源さん
おくむらげん



どう考えても
ここ。

石間 崇・絵美
いしま たかし・えみ
さんご夫妻



出会いです。

林 葵さん
はやしあおい



ご縁です。

北村 康司さん
きたむらやすし



ここでしか
できないんです。

柴田 有希佳さん
しばた ゆきか



ちょうどいい
田舎がある。

Casey Bean さん
ケイシービーン



たまたま
なんですよ。

川合 孝知さん
かわいたかとも



石間さんご夫妻

能美市仏大寺町にあるイタリア料理店「イルボッツォロ」のオーナー&シェフ。横浜を含め、10年以上のレストラン勤務を経て独立。ご主人の崇さんは加賀市ご出身。奥さまの絵美さんは緑が丘ご出身。

仏大寺町



普通に“クオリティ・オブ・ライフ”な人生を歩みたい。そして、出したい料理を出しやすい価格で提供したい。で、ここなんです。

金沢から横浜の飲食店へ移り10年ほど働いてきた石間さんご夫妻。ご主人の40歳を契機に決心し、東京有楽町にあるアンテナショップから情報を集め、全国の市町村が会するUターン、Jターン、Iターンの会場に足を運んだことが、移住のきっかけだそうです。

「もちろん帰るに、あたっては、何カ所も候補を、加賀市もそうですし、能美市も白山市も含めて調べました。その中でちょっと金沢は、もうある意味、メリットがやっぱりないと思ったんです。レストランも多いですし、実際問題そこで家賃を払いながらやっていくには負担が多い。

結局、イタリアンってやっぱり手軽なものであると自分は思っています。手軽であるということは、お値段的にもある程度は抑えられたお料理であるべきだし。それってどうやったらできるかというと、素材であったり、なおかつ固定費とか、自分たちもどこかでまたアパートを借りて、店舗のテナントの金額がかかるという二重の家賃の流れの中でやっていくと、どうしても、お出しする料理にプラスアルファになってしまいますよね。だから地方で出すなら、東京よりも安く。一番の差ってそこだと思うし。だったら田舎で、自分たちが出したい料理を、出しやすい価格で提供したいな、という思いもあって、金沢は最初に外しました。

あと、自分はバリスタでもあるのですが、コーヒーは技術的なところと、豆と、もう一つの要素が、やっぱり“水”なんです。水道水や浄水、それこそミネラルウォーターとかをいろいろ試していて、石川県内の水はどうか、と検索したら、ここ（仏大寺町）の水だったんです。」

候補地を3ヶ所に絞り、その中から能美市を選んだのは、奥さまのご実家が近いこと、そして市の支援制度が充実してたことも大きな理由。「いまだにGoogleマップ上では、ここは田んぼですから」と笑う石間さんは、仏大寺町での毎日がとても充実しているようです。

「二人でやっている以上、普通に“クオリティ・オブ・ライフ”な人生にしたい。働き過ぎないで、なおかつ無理をし過ぎないで、長くやっていこうかなと、おもっています。」

イタリア料理店「イルボッツォロ」
<https://www.facebook.com/ilbozzolo/>



さらに詳しい内容を市のホームページに掲載しています。



北村 康司さん

大阪府豊中市生まれ。東京で大手スポーツジムインストラクターとして活躍中、学生時代からの友人で九谷焼 上出長右衛門窯の六代目、上出恵悟氏の勧めもあり、2016年より上出長右衛門窯に。東任田町在住。

東任田町



自分を活かすための場所であり、活かされる場所の存在がこの能美市にある上出長右衛門窯だったんです。

現在の九谷焼上出長右衛門窯に来る以前は、都内の大手スポーツジムでインストラクターをされていた北村さん。

「絵は好きでしたね。幼稚園の時から、描いた絵を郵便局に何年も飾ってもらったりとか、そんな記憶があります。当時の優先順位は絵よりも体を動かすことの方が上でした。小学校では野球部、サッカー部、陸上部、地元のソフトボール。そして中学校のサッカー部、全てのチームでキャプテンを務めました。体を使うことは常にやっていて、高校はその延長線上で、強い所でチャレンジしたいという思いがありましたね。」

その思いは、瀬戸貴幸選手などプロのサッカー選手も輩出する強豪、熱田高校入学へ。1年生からの試合出場にもかかわらず、進級で美術の方に。「とはいえ、スポーツはずっとやってました。それと予備校や大学でヌードデッサンや人物を描いたりするのに必要な、解剖学を学んだりしたことが、スポーツジムでも役に立ちました。お客さんにはマニアな方もおられるので、プロとしてお客様のご要望に添えられるよう勉強しました。」

そんな北村さんに転機が訪れたのは、2013年頃、受験生時代からの親友で、当時すでに窯元を継いでいた上出恵悟さんが作品展示のため上京した時のこと。北村さんの粘土作品を見て「うちで作ればいいじゃん」という話に。それからの3年間で14回ほど作品づくりで能美市に訪れ、移住を決心。「街の第一印象は『ここがあの松井選手が通った駅なのか！』ですね。野球をやっていた小学生の頃から松井秀喜さんの大ファンだったんです。だから、地元の能美市に来たときには興奮しました。時間をかけて自分のルーツに辿り着いた感覚です。移住後の生活は時間的にゆっくりと感じたり、静かだったり。自然が身近にあるところ僕としてはすごく重要なポイントだと感じてます。僕が通った東京の美術大学は都心から離れた玉川上水沿いにあるんですよ。土とか自然が残っていて、無人の野菜売り場があったり。それが大学時代を過ごした場所の特徴だったのですが、ここではそういう点で繋がってます。自然が豊かで、車を少し走らせると海があり、山があり。自分にとってもそれがすごく息抜きになる。時々、海だけをただ眺めに行ったりすることができる場所なんです。」

九谷焼 上出長右衛門窯
<http://www.choemon.com/>



さらに詳しい内容を市のホームページに掲載しています。





ケイシー ビーンさん

アメリカ合衆国東北部マサチューセッツ州東端のケープコッドご出身。アメリカでの大学が金沢工業大学と提携関係にあり、英語教師として来日。アメリカの大学院で出会った奥さまは、新潟県ご出身。

松が岡



文化圏金沢からほどよい距離で現れる美しい自然。子どもにも、自分にも、好きなことに没頭できる環境です。

ケイシーさんは、新潟県ご出身の奥さまとアメリカの大学院で出会い、将来、日本に来て働くことを想定し、大学院で英語を外国語として教えられる修士号を取得しました。彼は出身校と提携関係にある金沢工業大学(KIT)で英語を教えています。

「能美市は、家族のためにはいい場所です。松が岡には他にも若いカップルがたくさん住んでいるので、子どもたちには自分の同世代の遊び仲間がいて、近所の友達と一緒に地元の学校に通っています。」

ケイシーさんご夫妻は、日本語と英語の両方を話せるように、子供たちを教育しています。ご夫妻は、家では子どもたちと英語だけで会話し、子供たちには自立心や他人を思いやる心、そして責任感を育ませたいと思っています。もちろん彼は、子どもたちが小学校の日本語環境で毎日が大変なことは理解できるので、家庭での愛情は惜しまず接しています。

彼の趣味は、ウェイトリフティングとパーマカルチャー(※)。自宅の庭で野菜、多年生植物、そしてさまざまな果樹を育て、鶏もこの生態系に関わっているようです。鶏小屋には、ボリスブラウン、岡崎おうはん、白鳥骨鶏など数種類が飼育されています。

ケイシーさんは、能美市には“ちょうどいい頃合いの田舎”があると。「能美市は、自然の多い素敵な環境ですが、田舎というほど暮らしにストレスを感じるわけではありません。金沢市内までわずか30分です。金沢はクールで小さな街です。たくさんの文化、日本三大庭園の一つの兼六園、武家屋敷、そして美味しい料理があります。繁華街には素晴らしいレストランとナイトライフがあります。興味深い歴史に触れ、堪能した後、20分以内には中心地から出ることができるコンパクトさです。

それに対し能美市は、アウトドア活動がたくさんできる場所です。まさに“水に浮かび、太陽の下で遊べる”子どもの時から楽しめる街です。子どもたちとドライブに出かけ、途中、眺めのいい場所や珍しい風景のところでクルマを止めて写真を撮るくらい美しい場所でもあります。」と、ケイシーさん。

「日本で、そして、松が岡に住めて満足しています。」

※パーマカルチャーとは、伝統的な農業の知恵と現代の科学や技術の知識を持続可能な環境を作り出すためのデザイン体系のことです。

さらに詳しい内容を市のホームページに掲載しています。



奥村 源さん

横浜市ご出身。みなもと農場代表。大学卒業後、大手IT企業に就職し金沢本社へ。そこで奥さまと知り合い、能美市に移住されました。ご自宅の周りで行われている農業に惹かれ、とうとうご自身でも起業。

出口町



農業を始めてから、本当にいろんな人に助けられました。能美市の魅力は、ひよっとしたら人なのかもしれませんね。

「ただ、とにかく家族でその家庭菜園で、なっているものを取るのが楽しかった。みんなで朝、母親とか兄貴らと一緒にチョキッと取れたという、あれだけはよく覚えていますね。」

奥村さんは金沢が本社のIT企業に就職・配属され、ご結婚後、能美市に居を構えました。その後も東京や大阪など6年近く単身赴任の月日が流れていた奥村さんは既に満身創痍。奥さまのご理解も得られ、退社し、能美に戻られ農業をはじめました。居を構えて10年。まだ小さいお子さま三人を抱えてのゼロスタートでした。

「最初は上手に売れなかったらどうしようと思って、あれこれやって、実はそれが大変なだけで。本当、嫁さんごめんという感じで通帳残高は減っていく、減っていく・・・結局そこに、はっきり踏み込んでくれたのは2年目の暮れぐらいに農協を経由して知り合えたトマトを専門に作っているベテランのおじさんでした。ポイントをついてくれる人で、もうこれはやめろ、これはやったほうがいいというのをぱっぱって言うてくれた。そこからちょっと頭は切り替わってきましたね。農業の大変さは、そのある面積に植えたものが人並みに収穫できるかどうか。そのためには、やっぱり自分のその栽培技術をきちんと確立できないと駄目なんです。上手になってくると、天候に対してのプレを自分でうまく調整していけるのが本来の技術なんだろうと思うんですね。」

そんな奥村さんが今でも忘れない初期の出来事があります。「僕は農業を始めてから、一番最初は農業法人で勉強させてもらった後も、そこの方やこの近隣の農家の方、本当に人には恵まれましたね。いろんな人からいろんなものをいただいたり、何かとアドバイスも。今、この上のビニールなんか、最初は近所のビニールハウスをしている農家さんからおろしたビニールをもらってきて廃ビニールを張ってました。お金もないしと困っていたときにです。その農家さんは、本当は多分、張り替えずに良かったはずなんです。『奥村さん、どうせ張り替えるからいいよ』と言ってわざわざおろしたものを譲ってくれて。本当に・・・

能美市の魅力は、実はひよっとしたら、人なのかもしれませんね。」

みなもと農場 能美
ホームページ(フェイスブック)

さらに詳しい内容を市のホームページに掲載しています。





林 葵さん

大阪府ご出身。ヨガインストラクター。結婚を機に夫の実家へと移住。大阪では保育士さん。子育て中のストレスを緩和するため、市開催の親子ヨガに参加したことがきっかけで、ヨガの道へ。

湯谷町



能美市への移住が、ヨガと出会ったきっかけです。子育てのストレスを感じる女性に、自分ができることは何かと。

大阪で保育士をされていた林さん。研修会場での運命的な出会いがあり、ご主人の故郷へ。能美市でご主人の両親と暮らし、現在はヨガのインストラクターをされています。

「保育士で専門職だった時は、うまくクラスを運営をできていたのに、わが子となると本当に言うことも全く聞かないし、難しく。理想はちゃんとあるし、いろいろなこと知識もあるけれども、わが子にはそれが全然通用しないという、いろいろな感情が。ギャップも大きかったと思います。」

初めての子育てでわからないことがあっても、相談できる友達も近くにいないというようなところで悩んでいた林さんは、いろいろなことが重なっていた時にヨガと出会うことに。保育士のときから苦しんできた腰痛など、体の不調が治ったり、精神面での気持ちのもち方など、体だけじゃないところがヨガにはあることにも惹かれ、本格的な勉強へ。

「全米ヨガアライアンスという世界的に一番大きい資格があるんですけども、200時間で取れるのを知り、子育て真っ最中に、週末だけ金沢で受けられるコースに通いました。週末になると『ちょっとお願い』と子供を預けて、また平日は、息子が昼寝したりしたらちょっと課題をしたりみたいな感じで資格を取りました。」

保育士の資格を持ちながら自分のお子さまを育てられたことが、両方の立場で子育てを考えられるようになったという林さん。現在は、「のみにこ」という市の施設で教室を開き、子育て支援センターでお母さんたちとのヨガや、キッズヨガ、親子ヨガを開かれています。

「実は、うつ状態に近いお母さんたちが結構いるんです。自分の身近にも。なので、どうしたらいいんやろうと思ったときに、自分はヨガに救われたので、それを伝えたいなという思いがありました。産後うつなどから結局、弱い子供のところへストレスが向かってしまうことで、子供が育つ環境が悪くなってしまう。そこにながでできるかな、と自分の中で考えると、ヨガを通して、お母さんたちをちょっと救うことかなと思います。」

お母さんたちを少しでも楽にするというか、保育士さん、お父さん、おじいちゃん、おばあちゃんも、“子育て楽しいな”と思ってもらえる環境をつくってあげたいなと思っています。」

みんなのYoga <https://minnanoyoga.theblog.me/>



さらに詳しい内容を市のホームページに掲載しています。



柴田 有希佳さん

福井市のご出身。九谷焼作家。大学卒業後、11年前から能美市に。石川県立九谷焼技術研修所を経て、作家の山田義明氏に師事。助手をする傍ら、個人作品を制作。受賞歴も数多い。

佐野町



能美市に来る一番のきっかけは、先生の作品をみたことです。今も、描く葉っぱ一枚に、くよくよさせられている感じです。

石川県白山市にある短期大学の陶芸コースから研究コースへ進み、自分の研究を続けていた柴田さん。その間に、毎年開催される日本伝統工芸展に出品されていた山田義明氏の作品に出会いました。その時の作品は野葡萄を描いた45センチぐらいの大きい鉢。「それに野葡萄の虫食いなどがすごく繊細に描かれていて、いいなと思ったんです。能美市に来る一番のきっかけはきっとそれでした。先生の作品をみたことです。」

短大の時は福井から通われていた柴田さんは、研修所の研究科に入る時から能美市に住みはじめることに。

「市の印象はすごくいいです。先生のところに最初に入った時点で、私の身元は怪しくないというか、山田先生のところの柴田さんというのでもよくしてもらっています。あと、先生にもご兄弟がいっぱいいらっしゃるんで、野菜をもらったりしています。先生のつながりに乗っからせていただいているだけのものなんです。(笑)」

小学生の時から自然と植物を描いていたという柴田さんは、いまでもスケッチを欠かすことはありません。

「桜の種類って100種類以上あるんです。今年(2019年)の個展が3月20日からだったんですが、その時の個展のメインは桜にしようと思って。(右の上から2枚目の写真)これがヤマザクラで、これがシロタエという品種。これがソメイヨシノで、これがカスミザクラ。近くの百何十種類の桜が植えてある林業試験場に去年の春から通って、品種をそこで調べて描きました。」

「ここ(山田先生のアトリエ)に入って一番最初に言われたのが、仕事をするだけじゃなくて、ここに来たら人間として成長することも大事。と言われたのをすごく覚えています。それはやっぱり、先生を見ていると何となくどういうことか、言葉ではうまく言えないんですが、先生ご自身のお人柄がよいので、それが絵にも出ているのは、私は傍らで見ています。人格という生き方がきつと出てしまうから、人格を磨けっておっしゃったんだと思います。先生とは性別も違うし、見てきたものも違うだろうし、作っていくものは変わって、それは作風が分かれていくのは当然だと思うんですが、根っこが先生であって枝が私なわけですから、どういう方向に伸びていくかは、読んだ本であるとか、会った人とか、そういうのでどんどん変わっていくと思います。」

さらに詳しい内容を市のホームページに掲載しています。





その会長さんが『どこに住むところを』と言って、能美市の
 単身住宅、市営住宅を探してくれて、そこに住んだんです。

川合 孝知さん

静岡市のご出身。九谷焼作家。埼玉県のメーカー勤務から、26歳の時に九谷焼技術研修所の試験をパスし石川県へ。28歳から能美市に居住。窯元で働いた後、10年前に独立。奥さまは愛媛県のご出身。

寺井町



大学で生産工学部を専攻し、防振ゴムや免震ゴムの研究をされていた川合さん。埼玉の防振ゴムメーカーに3年勤めてみて、将来的に違う職に就きたいと思いはじめたところ、九谷焼技術研修所の存在を知りました。

「軽い気持ちで始めたんです。会社にもそんなに偉くなれそうもないし。生活の安定とか、全然何も考えていない。逆に考えていたらやっていなかったと思うし、何も知らないから始めたのであって。」

という川合さんは、試験に合格し、研修所に通うために最初は金沢に居を構えます。1年後に就職する際、当時研修所の同級生だった奥さまとは、二人で製作していく将来を考え、研修所の先生に一貫製作をしている工房を紹介してもらったのが、吉光町の上出長右衛門窯さんでした。

「そうしたら、その会長さんが『どこに住むところを』と言って、能美市の単身住宅、市営住宅を探してくれて、そこに住んだんです。上出さんのところに、8年ぐらい正社員でいました。それから九谷陶芸村の支援工房に入ったのですが、その時に、雅彦さん、当時の上出の社長さんが、『最初は食べていけないだろうから、最初は半日、うちにバイトに来たら』とおっしゃってくれて。午前中は上出さんで働いて、午後から陶芸村で自分の仕事をする。それで自分の仕事が1年半か2年後ぐらいになんとか軌道に乗ってきたので、上出さんに『自分でやります』と。何もできない僕を、10年くらい上出さんに育ててもらったし、九谷焼の業界に多少は恩返しもしなければと思っています。感謝しかないですね。」

緑もなく、隣家との隙間もあまりとれない静岡の街の中で育った環境から、今は緑もすごくたくさんあって、空気もいいと。もともと乾燥肌だった川合さんは、こちらに来て以来、冬に体がかゆくなることがなくなったそうです。

「今は結構お店も病院もたくさん出来たので、日常生活をするのにはいいですね。ちょうどいい。子どもが保育園に行くとか遊びとかでも、いろいろなところがありますし。別に何不自由なく暮らしていますね。」

仕事は、自転車操業より、もっとあれですね。もう本当に三輪車並みですよ。漕がないと進まないという。漕いでも進んでいるのか分からないことも多々ありますけれども(笑)。それでもまあ、一生続けられたらいいですね。仕事があるから、感謝だけです。本当に不思議な、なぜですかね、ということですね。」

さらに詳しい内容を市のホームページに掲載しています。



聞いてみまっし



能美市には、知る人ぞ知る世界有数の企業が多数あります。
 染色高次加工を基盤に多彩な事業領域をカバーする「化学素材メーカー」小松マテーレ。
 ベアリングのローラ部品製造で日本のシェア7割を占める品種も製造する東振精機。
 食べられる成分や天然由来成分にこだわる基礎化粧品メーカー、ルバンシュなど
 他にはない優れた企業が能美市を拠点としています。

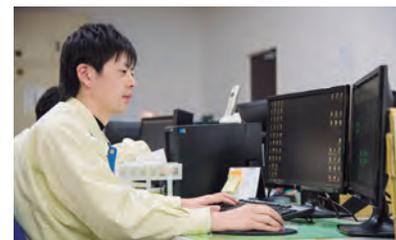
小松マテーレ

海外のTOPブランドにも供給しているファッション・スポーツなどの衣料分野から、医療関連、建築建材関連、電材関連などの資材分野、さらには炭素繊維や超発泡セラミックス建材など環境共生素材を軸とした先端材料分野まで、多彩な事業領域をカバーする「化学素材メーカー」です。



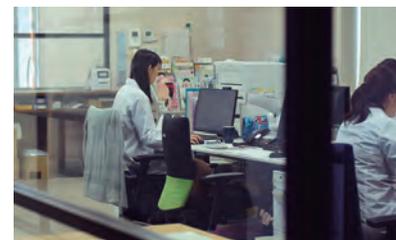
東振精機

10,000分の1mmという驚異的な精度で自動車用からコンピュータ機器などに使用される超小型用までのベアリング組込み用ローラを専門に開発・製造を行う業界屈指のメーカー。高精度ローラは世界中に供給され、円筒・球面ローラにおいては国内トップシェアを誇ります。



ルバンシュ

発売以来100万本以上の販売数を誇るロングセラーのリップクリームはニンジンや大豆などの食用成分のみで製造。肌の老化を促進する紫外線の予防には、幼児期からの対策に重点をおき、お肌の健康を守るためUV対策の重要性を訴えています。



来てみまっし

能美市は、伝統工芸九谷焼の産地で、多くの優秀な作家が住んでいます。絵付け体験もできる九谷陶芸村の施設をはじめ、いしかわ動物園、手取フィッシュランド、松井秀喜ベースボールミュージアム、辰口丘陵公園など、子どもから大人まで、家族みんなで楽しめる施設が充実。さらに、辰口温泉郷や地元の食材を使ったレストランなど心も体もリラックスできる観光スポットもあります。

日本が誇る伝統工芸「九谷焼」の魅力を存分に体感できる九谷陶芸村

九谷陶芸村では「見る」「知る」「創る」「買う」といった魅力を存分に堪能することができます。村内には、「ジャパングタニ」をはじめとした過去の名作を鑑賞するとともに、九谷焼の制作工程や歴史を学べる「九谷焼資料館」や文化勲章を受賞した能美市出身の二代・故 浅蔵五十吉氏の作品を中心に名品を間近に鑑賞できる「浅蔵五十吉美術館」、気軽に絵付けや作陶体験が楽しめる「九谷焼陶芸館」をはじめ、10の九谷焼店舗が集結しており、九谷焼のお土産を購入できます。また、150年の歴史があり、毎年5月の連休に開催される「九谷茶碗まつり」は、全国からおよそ20万人が訪れます。そのほかイベントも数多く開催されています。



九谷焼ウルトラマンシリーズ

ウルトラマンシリーズの脚本家、佐々木守さんの故郷である能美市は、九谷焼でキャラクターを表現した「九谷焼ウルトラマンシリーズ」を発売。家族でとりくむことができる絵付け体験は、その時間をオンラインワンの色彩で残せると好評です。

© 円谷プロ



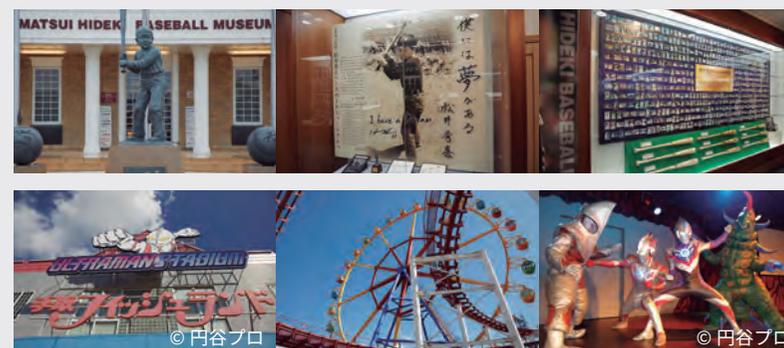
自然環境を活かした家族向けの施設

辰口丘陵公園、そして日本海側屈指の規模を誇る国指定史跡の能美古墳群など、自然環境を活かした家族向けの施設が数多く整備されています。住みよさランキング2019で全国第8位の評価にも貢献。



子供たちに夢と感動を与える施設

国民栄誉賞を受賞された松井秀喜氏のベースボールミュージアム、全国で唯一「ウルトラヒーロー」に毎日会うことができる「ウルトラマンスタジアム」(手取フィッシュランド内)など、子供たちに夢と感動を与える施設も民間の皆さんの努力によって整備されています。



開湯千四百年。名湯 辰口温泉郷

開湯1400年の歴史を誇る辰口温泉は、金沢から一番近い温泉地として親しまれています。肌によさしい泉質であることから「美人の湯」としても知られており、女性からの人気も高いです。風情ある名湯と旬の幸を堪能しながら、贅沢なひと時を。



ここは両方とも行かないと。一軒家レストラン

インタビューにも登場した石間さんご夫妻の「イルポツォロ」は、コストを抑えながら美味を提供する信念に貫かれたイタリア料理店。バリスタのご主人が淹れるカプチーノも最高です。「ソリッソ」は自然派のこだわり素材を使う、農家レストラン&チーズケーキ専門店。ヤギのミルクを使うチーズケーキや、ゆずジェラートなど、人気のスイーツはテイクアウトも可能です。



人気絶好調。上出長右衛門窯

6代目上出恵悟さんのアートセンスが話題になり、国内外のブランドや作家とのコラボレーションも数多く、セレブの熱烈ファンもいる九谷焼の窯元。工場に隣接したショールームでは、駅や空港で買えない作品がずらりと並びます。お忍びで来た有名人に偶然出会えるかも。



夏はナイト ZOO も。いしかわ動物園

「楽しく、遊ぶ、学べる動物園」を基本コンセプトとし、自然の地形を生かした中に動物たち本来の生息環境を再現しています。ホワイトタイガーや、コビトカバトキなど、めずらしい動物たちを間近に観察できる全ての人が楽しめる動物園です。



来てみまっし



能美市はこんなところ

能美市は石川県の南部、加賀平野のほぼ中央に位置し、県都金沢へは北東約20kmの距離にあります。南に日本海側の拠点「小松空港」がある小松市が隣接し、当市の北側には標高2,702mの白山から流れ出る手取川の扇状地、そして日本海に面した美しい海岸線があり、南側には白山山系に連なる、なだらかな丘陵地である能美丘陵を擁しています。海・川・山・平地に恵まれた、非常に豊かな地勢です。



3大都市圏から鉄道で3時間以内



東京からのアクセス



大阪からのアクセス



名古屋からのアクセス



能美市 移住・定住
キャンペーンサイト
<https://www.city.nomi.ishikawa.jp/iju/>

気に入ってくれたんやったら
ぜひ、住んでみまっしね。



能美市のことは市のホームページでさらにもっと詳しく <https://www.city.nomi.ishikawa.jp/>

のみ移住サポートセンター

能美市で初めて暮らし始める方、移住を検討している方のご相談をお電話や面談でお受けしております。
(面談ご希望の方は予めご連絡ください)

0761-58-2246 (月～金 8:30～17:15)

Email: chiiki@city.nomi.lg.jp

能美市役所 企画振興部 地域振興課内 能美市来丸町 1110 番地